

川上善兵衛 園芸家、篤農家。生涯ブドウ栽培に取り組み、時代に翻弄されながら、ブドウ酒等産業発展の基礎。

かわかみぜんべえ

明治維新・1868 =

越後国頸城郡北方村(新潟県上越市北方)で、**維新後も勝海舟はじめ新潟を訪れる政府高官が立ち寄るような豪農の家に生まれる。**

幼時に父が死去して、家督を相続、躰の厳しい母に育てられ、

明治6年政変 1873 = 5歳 :

近くながら全寮制の塾に入って、小作人の子供たちと生活をともにすると、

西南戦争・1877 = 9歳 :

小作人に同情して、その生活向上を考えるようになる。

明治14年政変 1881 = 13歳 :

上京して慶応義塾に入るも、なじめずに直ぐに退学する一方、勝海舟を訪ねて教えを受け、帰郷。

自宅に籠って独習に励む一方、**母方の知人武田範之に会って、強い影響を受け、**

帝国大学始・1886 = 18歳 :

**零細な水田単作農業からの脱皮が農家経済の発展と考え、ブドウ栽培とブドウ酒醸造を思いたち、ブドウの本場山梨県へ出かけて実習し、**

帝国憲法発布 1889 = 21歳 :

帝国議会始・1890 = 22歳 :

足尾鉾毒始・1891 = 23歳 :

**山林を開墾して同地に"岩の原ブドウ園"を造成、**

山梨県から取り寄せた苗を手始めに、

拡張を続けるうち、**ヨーロッパの品種の方が良いと気づいて、英語とフランス語を独習、**

日清戦争始・1894 = 26歳 :

日清戦争終・1895 = 27歳 :

**研究を重ねて、品質の良いブドウ酒づくりに成功、東大医学部で分析してもらって改良を加え、**

子規句歌革新 1898 = 30歳 : **"菊水ブドウ酒"と"菊水ブランデー"の大量生産に踏み切る。**

教科書疑獄・1902 = 34歳 : **東北旅行中の皇太子(後の大正天皇)が所望して、"岩の原ブドウ園"に突然来訪、感心される。**

日露戦争始・1904 = 36歳 :

**<日露戦争>が始まると、兵士を励ますために戦線に送る大量のブドウ酒の注文が舞い込み、ブドウ園も工場もますます拡大、**

日露戦争終・1905 = 37歳 :

韓国反日暴動 1907 = 39歳 :

アヲ洋 創刊・1908 = 40歳 :

**それまで取組んできた研究を「葡萄提要」として書き上げ、**

**出版すると、農学者らにも知られるようになる。**

**全盛期には20万ヘクタールのブドウ園に、フランスやアメリカから輸入したものも含めて6,300余株のブドウが植えられ、小作人たちへも多くの賃金が支払われて感謝される。**

明治天皇没・1912 = 44歳 :

大正政変・1913 = 45歳 :

**政府の依頼を受け、朝鮮・満州方面を視察し、ブドウ栽培の可能性などを調査するなど、発展するが、**

**外国産のブドウ酒が安く輸入されるようになって、**

原敬首相暗殺 1921 = 53歳 :

水平社結成・1922 = 54歳 :

**売れ行きが一気に激減、農園と工場経営に行き詰まり、行く末を案じるうち、親戚の生物学者から"メンデルの法則"を教えてもらうや、醸造用品種の改良を志し、**

**以後、20年間に400余組の交配を行い、マスカット=ベリー-Aほか25の優良品種を育成、ブドウの本場山梨県や岡山県はじめ栽培面積が広がり、大都市へと出荷されて評判となって行く。**

**その研究成果をまとめ、**

満州事変・1931 = 63歳 :

五一五事件・1932 = 64歳 :

**翌年にかけて「葡萄全書」全3巻を刊行、わが国のブドウ産業・ブドウ酒醸造の発展に多大の貢献をするが、**

帝人疑獄事件 1934 = 66歳 :

**ついに"岩の原ブドウ園"が破産、農園・屋敷・家財一式全てを失い、以後、ブドウ園と工場を買収した(寿屋)の保護のもと、研究を続ける。**

日中戦争始・1937 = 69歳 :

大政翼賛会・1940 = 72歳 :

日米開戦・1941 = 73歳 :

**論文「交配に依る葡萄品種の育成」(「園芸学会雑誌」11ノ4)に対し日本農学会より農学賞が与えられた。**

**その後、日本人が朝鮮人を差別するのに憤って、武田範之の伝記執筆に専念、「朝鮮秘史」と題するも、戦時下、どの出版社も本にする勇気が無く、陽の目を見ないまま、**

年金+総武装 1944 = 76歳 :

自宅にて**没した。**